

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」と肯定的回答した児童の割合が県平均を4ポイント上回ったことから、前向きな考えを持つ児童が多い。授業の中でグループ活動などを取り入れることによって、児童の自信につながっている。今後も児童間の認め合いなどに重点をおいた学級経営に努めていきたい。

○「自分によいところがあると思う」と肯定的回答した児童の割合が県平均を8ポイント上回っている。その中で「あてはまる」と回答した児童の割合は県平均を24ポイント上回っており、自己肯定力が高いと言える。帰りの会などで、互いの良いところを賞賛し、認め合う活動が成果としてあらわれている。今後もお互いに認め合う活動を継続していきたい。

○「地域や社会をよくする何をすべきか考えることがある」と肯定的回答した児童の割合が県平均を14ポイント上回る。さらに「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した児童の割合は県平均を4ポイント上回った。その背景には総合的な学習の時間の中の本校独自のくすのきプランの授業により、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多くあったからと思われる。「5年生までに受けた授業や課外活動で地域の人と関わったりする気概あった」と肯定的回答した児童の割合も県平均を12ポイント上回ったことから分かる。今後も地域との連携を図りながら、地域の良さをさらに知る機会を授業の中に取り入れていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童の割合が県平均を8ポイント上回った。道徳の授業や校内でいじめゼロ運動やふわふわ雲などの啓発活動を通して、相手の気持ちを考える態度が身に付いている。今後も活動を継続していきたい。

●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に「1時間未満」と回答した児童の割合が県平均を23ポイント上回っている。学年別家庭学習時間が決められているが守られていない。今後は家庭への働きかけと家庭学習の方法の指導に力を入れていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問に「10分未満」と回答した児童の割合が県平均を27ポイント下回っている。「読書は好きですか」と肯定的回答した児童の割合も県平均を4ポイント下回っている。今後も読書の魅力を児童に伝えるために、図書委員会による読み聞かせや学校図書館司書による情報提供を行い、読書の定着につなげたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の確認・充実 ・自分の考えや意見を伝え合う活動の実践 ・家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・授業において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を板書し、ノートにもまとめるよう指導している。 ・自分の考えを言葉や文章でまとめたり、友達とさまざまな形態（ペア・グループ・全体）で学び合ったりする場面を設定している。 ・「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするよう指導している。	・「授業では、めあて・まとめがしめされている」「ノートにねらい・まとめを書いている」と回答している児童の割合が多い。 ・「授業でまとめて自分の考えを書くことは難しい」と感じている児童が多い。また、学年によっては「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」という児童の割合が県や市より低くなっている。 ・家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている児童の割合が、県平均よりも低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
課題を読み、自分の考えを文章によって表現する問題で、正答率が低い。無答率も高くなっている。	・文章を読み取る力を身に付ける。 ・自分の考えを、文章で表現したり、まとめたりする。	・文章を読み取る力が身に付くよう、音読を行ったり、読書を奨励したりする。 ・自分の考えや分かったことを、文章で表現したり、まとめたりする活動を意図的に行う。